

第3・4学年複式算数科指導案

日 時 平成20年11月12日(水) 5校時
 児 童 第3学年 女2名
 第4学年 男2名 女2名 計6名
 指導者 鈴木 美智子
 菊池 奈奈子(特別支援サポート)

第3学年	第4学年
<p>1 単元名 「かけ算のしかたを考えよう」 (東京書籍 下P12～25)</p>	<p>1 単元名 「わり算の筆算を考えよう」 (東京書籍 下P2～19)</p>
<p>2 単元の目標</p> <p>○ 筆算形式による2, 3位数に1位数をかける乗法計算のしかたについて理解し、それをを用いる能力を高める。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆算形式による2, 3位数×1位数の計算のしかたを、既習の乗法計算のしかたをもとに考えようとする。 <p>【数学的な考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆算形式による2, 3位数×1位数の計算のしかたを、数の構成や十進位取り記数法をもとに考える。 <p>【表現・処理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2, 3位数×1位数の計算を筆算で正確にできる。 ・ 乗法の結合法則を計算に用いることができる。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2, 3位数×1位数の筆算のしかたを理解する。 ・ 乗法の結合法則を理解する。 	<p>2 単元の目標</p> <p>○ 筆算形式による2, 3位数を2位数でわる除法計算のしかたについて理解し、それを適切に用いる能力を伸ばす。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 除数が2位数の除法計算のしかたを、既習の除法計算のしかたをもとに進んで考えようとする。 <p>【数学的な考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見積もりをもとに、仮商のたて方や修正のしかたについて考える。 <p>【表現・処理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 除数が2位数の除法計算を正確に筆算でできることができる。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 除数が何十の除法計算のしかたを理解する。 ・ 除数が2位数の除法の筆算のしかたを理解する。
<p>3 教材の関連と発展</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="width: 20%;"> <p>第2学年</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">⑩かけ算(1)</div> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">⑪かけ算(2)</div> </div> <div style="width: 20%;"> <p>第3学年</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">①かけ算</div> <p>↓</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">⑪かけ算の筆算(1)</div> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">⑭かけ算の筆算(2)</div> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">③わり算</div> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">⑧あまりのあるわり算</div> </div> <div style="width: 20%;"> <p>第4学年</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">③わり算の筆算(1)</div> <p>↓</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">⑨わり算の筆算(2)</div> </div> <div style="width: 20%;"> <p>第5学年</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">②小数のかけ算とわり算</div> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">⑧小数のわり算</div> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">⑫分数と小数</div> </div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">(注: ⑩→⑪, ⑪→⑭, ⑭→③, ③→⑧, ⑧→⑨, ⑨→②, ②→⑧, ⑧→⑫の順に学習内容が展開される)</p>	
<p>4 単元について</p> <p>本単元は、学習指導要領の第3学年の目標(1)「加法及び減法を適切に用いることができるようにするとともに、乗法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、除法の意味について理解し、その計算のしかたを考え、用いることができるようにする。」及び、A数と計</p>	<p>4 単元について</p> <p>本単元は、学習指導要領の第4学年の目標(1)「除法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算のしかたを考え、適切に用いること</p>

算(3)「乘法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。ア 2位数や3位数に1位数をかけたり、2位数に2位数をかけたりする乗法の計算のしかたを考え、それらの計算が乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。イ 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。ウ 乗法に関して成り立つ性質を調べ、その計算のしかたを考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。」に基づいて設定されたものである。

これまでに、乗法の九九については、第2学年で学習しているが、第3学年では第1単元で、乗法の九九についての理解をまとめたり、乗法の交換法則や乗法が1ずつ増減するときの乗数と積の変化の関係を含めた分配法則について学習している。

本単元では、これらの学習をもとにして、何十、何百×1位数の計算について理解を図る。

ができるようにする。」及び、A数と計算(3)「整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。ア 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算のしかたを考え、それらの計算が基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算のしかたについて理解すること。イ 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。ウ 除法について、被除数、除数、及び余りの間の関係を調べ次の式にまとめること。(被除数) = (除数) × (商) + (余り) エ 除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算のしかたを考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。」に基づいて設定されたものである。

これまでに、整数の除法の計算(筆算)は、除数が1位数の場合については、第4学年の第3単元で学習している。

本単元では、除数が2位数で、被除数が2～3位数の計算について理解を図る。

5 児童の実態

本学級は、3、4年の複式で、3学年の児童は、2名である。今年度から複式で授業を行っており、複式の学習のしかたにも慣れ、間接指導時にも自分の学習内容を意欲的に進めることができる。

本単元に関わるレディネステストの結果を見ると、既習事項の「1位数×0、0×1位数、1位数×10、10×1位数の計算」「交換法則「乗法と積の変化の規則性」では、誤答や無答がなく、既習事項が定着していることが分かる。

未習部分の「2位数×1位数の筆算」については、文章題の立式まではできているものの、筆算のしかたが分からず、ほとんどが誤答、無答であった。

これらの実態から、本単元の学習では、既習の考え方をもとに、「2位数×1位数」「3位数×1位数」の筆算のしかたについて理解させ、確実に計算できる力を身につけさせたい。そのためにも、直接指導における「学び合い」では、教師とともに乗法の計算のしかたについて考えを交流し、その考えと筆算のしかたを関連づけながら、理解を確かなものにしていく。また、間接指導においては、学習したことを生かして、自分たちで練習問題に取り組ませることで習熟を図っていく。

5 児童の実態

本学級は、3、4年の複式で、4学年の児童は本来4名であるが、

(中略)

4学年の児童は、昨年度から複式学習をしており、学習のしかたにも慣れ、意欲的に自力解決に取り組む姿が見られる。間接指導時に困った場合にも、お互いに教え合いながら進めることができている。

本単元に関わるレディネステストの結果を見ると、既習事項の「2位数÷1位数、3位数÷1位数の筆算」「2位数÷1位数、3位数÷1位数の暗算」では、誤答や無答がなく、既習事項が定着していることが分かる。

未習部分の「2位数÷2位数の筆算」については、ほとんどの子どもが2割以上の誤答、無答であった。2位数÷2位数の文章題については、立式をすることができているものの、筆算のしかたが分からないため、かけ算をしながら答えを探している子どもも見られた。

これらの実態から、本単元の学習では、「2位数÷2位数」「3位数÷2位数」の筆算のしかたを理解させ、確実に計算できる力を身につけさせたい。そのためにも、間接指導における「自力解決」において、課題に対する自分の考えをしっかりと持てるような指導の工夫を図る。さらに、直接指導での「学び合い」で、自分の考えを交流し合いながら、よりよい計算のしかたに気づかせ、理解を深めていく。

6 指導観

本単元は、3、4年とも同領域の学習であるが、3学年は乗法、4学年は除法の理解を深めることが学習の中心となる。3学年は乗法、4学年は除法の理解を深め、その計算が確実にできるようにするため、筆算のもとになる考え方と筆算形式を関連づけて指導していきたい。そして、それぞれの筆算による計算のよさに気づかせるようにしていきたい。また、3学年は、教師と友達との集団解決を通して課題解決に迫っていききたい。4学年は、既習事項を生かしながら、自力解決する力を伸ばしていきたい。

研究仮説に関わっては、「少人数、異学年集団」という複式的特性によって生じるデメリットをできるだけ無くし、逆にそのよさを最大限に生かした授業の展開が図られるよう、以下の点に留意して指導にあたる。

- ・単位時間の授業展開を共通導入・共通終末を基本とする。お互いの学習内容を紹介し合ったり、比べ合ったりする活動を取り入れながら、学習の成果を相互に生かし合えるようにし、共に学ぶ一体感を大事にする。
- ・下学年の直接指導では、学習課題を一斉指導の中で解決する集団解決の形を取りながら進め、概念法則をしっかりおさえさせていく。その上で、間接指導において自力学習の形を取り、子どもたちが学習内容を振り返り、練習・習熟を図る時間とする。
- ・上学年の間接指導では、学習課題を自力解決し、学び合いに向けて自分の考えをまとめる時間としていきたい。自主的に学習を進めることができるように、「学習プリント」の構成などを工夫する。その後の直接指導においては、自力解決の結果を出し合い、集団解決をすることで概念法則をしっかりとおさえさせていく。
- ・プリントや授業中での観察を通し、子ども一人一人の学習状況を具体的に把握し、補充指導や個別指導に生かしていく。

7 指導と評価の計画

3年生 (全 14時間)			4年生 (全16時間)		
単元(配当時間) 目標	学習活動	評価規準	単元(配当時間) 目標	学習活動	評価規準
1 何十、何百のかけ算 (2)			1 何十でわる計算 (1)		
①何十に1位数をかける乗法計算のしかたを理解する。	◎ 20×3 の計算のしかたを考える。	何十×1位数の計算を、1位数×1位数の計算をもとにして考えている。 【考】	①何十でわる計算のしかたを理解し、その計算をすることができる。	◎ $60 \div 20$ の計算のしかたを考える。 ◎ $90 \div 20$ の計算のしかたを考える。	10を単位として、何十でわる計算のしかたを考えている。 【考】 何十でわる計算のしかたを理解している。 【知】
②何百に1位数をかける乗法計算のしかたを理解する。	◎ 300×5 の計算のしかたを考える。	何百×1位数の計算を、1位数×1位数の計算をもとにして考えている。 【考】	2 2けたの数でわる筆算 (1) (6)		
			②2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。	◎ $87 \div 21$ の筆算のしかたを考える。	2位数÷2位数の計算のしかたを、既習の計算をもとに考えようとしている。 【関】
2 2けたの数に1けたの数をかける計算 (5)			③わる数×商+あまり=わられる数の関係を理解し、除法の検算をする		
③2位数×1位数(部分積がみな1けた)の筆算のしかた	◎ 23×3 の計算のしかたをアレイ図や模擬貨幣などを	2位数×1位数の筆算のしかたを既習の乗法九九などをもとに	◎ $87 \div 21$ の検算をする。 ◎上記の型の計算練習をする。		除数は何十の場合の計算をもとにして、2位数÷2位数(仮商修正なし)の算

たを理解し、その計算ができる。	使ったり数操作をしたりして考え、答えを求める。	考えようとしている。 【関】	ることができる。		のしかたを考えている。 【考】
④ 2位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。	◎ 23×3 の筆算のしかたをまとめる。	2位数×1位数の筆算形式の書き方としくみを理解している。 【知】	④ 2位数÷2位数の筆算で、過大商をたてたときの仮商修正の意味とそのしかたを理解できる。	◎ $86 \div 23$ の筆算の仕方を考える。 ◎ $81 \div 12$ の筆算の仕方を考える。	過大商をたてたときの仮商修正ができる。 【表】
⑤ 2位数×1位数（一の位の数との部分積が2けた）の筆算のしかたを理解する。 (本時)	◎ 1辺が16cmの正方形の周長を求める式を考え、その計算を筆算でするしかたを考える。	2位数×1位数（一の位の数との部分積が2けた）の筆算ができる。 【表】	⑤ 2位数÷2位数の筆算で、過小商をたてたときの仮商修正のしかたを理解できる。 (本時)	◎ $78 \div 19$ の筆算のしかたを考える。	過小商をたてたときの仮商修正ができる。 【表】
⑥ 2位数×1位数（十の位の数との部分積が2けた、及び部分積がみな2けた）の筆算のしかたを理解する。	◎ 42×3 、 58×3 の筆算のしかたを考える。	2位数×1位数（十の位の数との部分積が2けた、及び部分積がみな2けた）の筆算ができる。 【表】	⑥ 除数を切り捨て、切り上げの両方による仮商修正のしかたを比較し、自分が考えやすい除数の処理のしかたを考える。	◎ $87 \div 25$ の筆算のしかたを考える。 ◎ 除数を切り捨てた（過大商）場合と切り上げた（過小商）場合の筆算のしかたを比べる。	仮商をたてやすい除数の処理のしかたを考えようとしている。 【関】 除数の見積もりをもとに仮商のたて方を工夫している。 【考】
⑦ 2位数×1位数の筆算のしかたを理解する。	◎ 29×4 や 75×4 の筆算のしかたを考える。	2位数×1位数（部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり）の筆算ができる。 【表】	⑦ 3位数÷2位数=1位数の筆算の仮商のたて方を理解し、その計算をすることができる。	◎ $153 \div 24$ の筆算のしかたを考える。	3位数÷2位数=1位数の筆算ができる。 【表】
3 3けたの数に1けたの数をかける計算 (4)			3 2けたの数でわる筆算 (2) (3)		
⑧ 3位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算のしかたを理解する。	◎ 場面をとらえて立式し、 312×3 の計算のしかたを考える。	3位数×1位数の筆算のしかたを、2位数×1位数の筆算をもとに考えようとしている。 【関】	⑧ 3位数÷2位数=2位数の筆算のしかたを理解し、その計算をすることができる。	◎ $345 \div 21$ の筆算のしかたを考える。	既習の計算のしかたをもとに、筆算のしかたを考えている。 【考】
⑨ 3位数×1位数（一、十の位の数との部分積がみな2けた）の筆算のしかたを理解する。	◎ 386×2 の筆算のしかたを考える。	3位数×1位数（一、十の位の数との部分積がみな2けた）の筆算ができる。 【表】	⑨ 3位数÷2位数=2位数の筆算のしかたを理解し、その計算をすることができる。	◎ $345 \div 21$ の筆算のしかたをまとめる。 ◎ 上記の型の計算練習をする。	3位数÷2位数=2位数の筆算ができる。 【表】
⑩ 3位数×1位	◎ 937×4 、	3位数×1位数	⑩ 商に0が立つ	◎ $914 \div 23$ や、	商に0が立つ場

<p>数（部分積がみな2けた、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算のしかたを理解する。</p> <p>3位数×1位数の筆算の理解を確実にする。</p>	<p>537×3の筆算のしかたを考える。</p>	<p>（部分積がみな2けた、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算ができる。</p> <p>【表】</p>	<p>場合（商が何十）の簡便な筆算のしかたを理解する。</p>	<p>960÷16の筆算のしかたを考える。</p>	<p>合（商が何十）の簡便な筆算のしかたを理解している。</p> <p>【知】</p>
<p>⑪乗法の結合法則について理解するとともに、3つの数の乗法が1つの式に表せることを理解する。</p>	<p>◎3□の乗法を式で表す。 ◎3□の乗法の結合法則をまとめる。</p>	<p>乗法2段階の式を1つの式に表すことができる。</p> <p>【表】</p>	<p>4 わり算のきまり (2)</p>		
<p>⑫学習内容を確実に身につける。</p>	<p>◎「力をつけよう」に取り組む。</p>	<p>学習内容を正しく用いて問題を解決することができる。</p> <p>【表】</p>	<p>⑪除法について成り立つ性質を理解する。</p>	<p>◎150÷50と15÷5と30÷10=3の関係を調べて、除法の性質をまとめる。</p>	<p>具体的な場面から、被除数、除数、除数と商の関係を考えている。</p> <p>【考】 除法の性質を理解している。</p> <p>【知】</p>
<p>4 まとめ (3)</p>			<p>⑫末尾に0のある数の除法の簡便な計算のしかたと、あまりの求め方を理解する。</p>	<p>◎3200÷4と2700÷400の筆算のしかたを考え、末尾に0のある除法の簡便な計算のしかたをまとめる。</p>	<p>末尾に0のある数の除法の簡便な計算が正しくできる。</p> <p>【表】</p>
<p>⑬学習内容の理解を確認する。</p>	<p>◎「たしかめよう」に取り組む。</p>	<p>基本的な学習内容について理解している。</p> <p>【知】</p>	<p>5 まとめ (4)</p>		
<p>⑭巻末 P80の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、単元の学習内容をもとにかけ算の筆算についての理解を深める。</p>			<p>⑬学習内容を確実に身につける。</p>	<p>◎「力をつけよう」に取り組む。</p>	<p>学習内容を正しく用いて問題を解決することができる。</p> <p>【表】</p>
<p>⑮⑯</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>小単元 P26～27 「どんな計算になるのかな」</p> </div>			<p>⑭操作的な活動や考察などを通して学習内容の理解を深め、わり算について興味を広げる。</p>	<p>◎「やってみよう」世界の国々のわり算の筆算のしかたを比べる活動に取り組む。</p>	<p>学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。</p> <p>【関】</p>
			<p>⑮学習内容の理解を確認する。</p>	<p>◎「たしかめよう」に取り組む。</p>	<p>基本的な学習内容について理解している。</p> <p>【知】</p>
			<p>⑯巻末 P80の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、単元の学習内容をもとにわり算の筆算についての理解を深める。</p>		

8 本時の指導について

(1) 目標

- 2 位数 × 1 位数（一の位の数との部分積が 2 けた）の筆算のしかたを理解する。

(2) 評価規準

評価規準	具体の評価規準	
2 位数 × 1 位数（一の位との部分積が 2 けた）の筆算ができる。 【表】	B	繰り上がりの補助数字を書き、正しい手順で 2 位数 × 1 位数（一の位との部分積が 2 けた）の筆算をすることができる。
	支援の手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・板書をもとに、計算の仕方をプリントにまとめさせ、計算の手順を確かなものにする。 ・繰り上がりの数字を十の位の下に小さく書かせることで、意識づけを図る。

8 本時の指導について

(1) 目標

- 2 位数 ÷ 2 位数の筆算で、過小商をたてたときの仮商修正のしかたを理解する。

(2) 評価規準

評価規準	具体の評価規準	
過小商をたてたときの仮商修正ができる。 【表】	B	除数を何十と見て、商の見当をつけることができ、商が小さすぎた場合は、修正して筆算をすることができる。
	支援の手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・除数を近い方の何十と見て、その数字を除数の上に書かせる。 ・あまりとわる数の比較を計算の手順に位置づけることで、商の修正の必要性に気づかせる。

(3) 指導にあたって

共通導入において、両学年の本時の問題を提示しお互いに聞き合う。この活動を通して、お互いの学習内容を知り、学級の一体感をもって学習に入れるようにしていく。

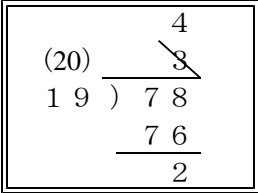
また、展開部分においては 3 年生を「直接→間接指導」という流れにし、「直接指導」では教師と友達とともに学び、 16×4 の計算のしかたを考えさせていきたい。その考え方と関連づけながら、 16×4 の筆算のしかたを理解させていきたい。その後、「間接指導」においては、本時の学習を振り返りながら、学習内容を自分で整理させたい。さらに、プリントに従って、練習問題に自主的に取り組ませることで、本時の学習内容の習熟を図っていきたい。

一方、4 年生は、「間接→直接指導」という流れにし、「間接指導」では、プリントの内容を手がかりに $78 \div 19$ の筆算のしかたを考えさせていきたい。あまりがわる数より大きい場合、商をどうしたらよいか考えさせ自分の考えを持たせたい。その後の「直接指導」の段階で、自力解決の結果をもとに、考えを交流しながら、商の修正のしかたについて理解させていきたい。

共通終末の段階では、学習感想や本時のまとめを聞き合うことで、お互いの学習内容の交流を図りたい。このことにより、3 年生は来年度への系統性を考え、4 年生は前学年の復習を行うことができる。また、学習交流をすることにより、学級としての一体感を味わわせることをねらう。

(4) 本時の展開

第3学年		第4学年					
資料	教師の支援と評価(◇)	学習活動と内容	段階・形態	学習活動と内容	教師の支援と評価(◇)	資料	
図	<ul style="list-style-type: none"> お互いの問題について聞き合い、他の学年の学習内容にも関心をもたせる。 図を提示し、問題の意味をつかませる。 前時の筆算の仕方でできそうか予想させる。 	1 問題をとらえる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 1つのへんが16cmの正方形の、まわりの長さは何cmですか。 </div> (1) 立式する。 式 16×4	つ か む 10分	つ か む 10分	1 問題をとらえる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 色紙が78まいあります。1人に19まいずつ分けると、何人に分けられて、何枚あまりますか。 </div> (1) 立式する。 式 $78 \div 19$	<ul style="list-style-type: none"> お互いの問題について聞き合い、他の学年の学習内容にも関心をもたせる。 数直線を掲示しておき、わる数の19は、20に近いことに気づかせる。 	数直線
		2 課題を把握する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 16×4の筆算のしかたを考えよう。 </div>		2 課題を把握する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> $78 \div 19$の筆算のしかたを考えよう。 </div>			
	<ul style="list-style-type: none"> $10 \times 4 = 40$と$20 \times 4 = 80$の真ん中ぐらいと見積もりをたてさせる。 既習内容を生かし、16を10と6に分けて計算のしかたを考えさせる。 部分積を省略しない筆算形式をもとに、前時の筆算との違いに気づかせていく。 筆算のしかたをあらかじめ書いておき、キーワードとなる言葉を書き込めるようにしておく。 	3 集団解決をする (1) 16×4 の答えを見積もる。 (2) 16×4 の計算のしかたを考える。 $10 \times 4 = 40$ $6 \times 4 = 24$ あわせて 64 答え 64cm (3) 16×4 の筆算のしかたを知る。 $\begin{array}{r} 16 \\ \times 4 \\ \hline 24 \dots 6 \times 4 \\ 40 \dots 10 \times 4 \\ \hline 64 \end{array}$	み つ け る 3分 た し か め る 5分 ま と め る 4分	3 自力解決をする (1) $78 \div 19$ の筆算のしかたを考える。 ア見当をつけた商で筆算をする。 イ商を修正して、筆算をする。 (2) 自力解決の振り返りをする。 ア発表用紙にまとめることで、自力解決の方法について自分の考えを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決の支援として、学習プリントを用意する。 自力解決に戸惑う場合は、プリントのヒントを手がかりとさせる。 商を修正した場合、修正する理由をプリントに書かせる。 自分の考えを発表用紙にまとめさせることで、学び合いの準備をさせる。 発表用紙を黒板に貼らせ、考えの似ているところ、違うところを見つけさせておく。 	プ リ ン ト 発 表 用 紙	

プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 16×4 の筆算の仕方をプリントにまとめることで、手順を確かなものにする。 ・ 繰り上がりの数字を書く場所を意識できるように、プリントの工夫を図る。 ・ 早く終わった場合は、学習感想を先にまとめさせ、その上で計算スキルに取り組ませる。 	5 学習内容を整理する (1) 板書を見ながら、学習を振り返り、学習プリントにまとめる。	ひろげる	たしかめる	4 集団解決をする。 (1) 似ている点と違う点を交流することで課題解決の方法について整理する。 ア $78 \div 19 = 4$ あまり 2 4 人に分けられて 2 枚あまる。 (2) 商の修正のしかたを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 式や答えにとどまらず、商を修正した理由、またどのように修正しているかについて考えを出させたい。 ・ 商が小さすぎた場合は、商を大きくしていくことをつかませる。 	
		6 練習問題を解く (1) 答え合わせをしながら、プリントに沿って進める。	18分	6分	5 まとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過小商の場合の、筆算のしかたを確認し、手順にそって、プリントに書かせる。 ・ 商の修正には、斜線を使い、新しい商をその上に書くようにさせる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導において、「繰り上がりの数字を書いているか」「位をそろえて計算しているか」を確認し、支援する。 <p>◇【表】 プリント</p>		ひろげる		6 練習問題を解く (1) 答え合わせをしながら、プリントに沿って進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ わる数に近い何十を使って、商の見当をつけるように、プリントにヒントを入れておく。 ・ あまりとわる数を比較させ、あまりが大きい場合に商を修正するようにさせる。 ・ 机間指導において、正しく筆算ができているか確認し、支援する。 <p>◇【表】 プリント</p>	プリント
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習を振り返る 	6 振り返る (1) 本時の学習感想を			7 振り返る (1) 本時の学習感想を	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習を振り返る 	

<p>振り返ったことについて4年生に伝え、学習交流を図る。</p> <p>・板書をもとに見比べさせ、両学年に共通する内容を見つけさせたい。</p>	<p>発表する。</p> <p>(2)学習のまとめを話し合う。</p>	<p>ひろげる</p> <p>5分</p>	<p>ひろげる</p> <p>5分</p>	<p>発表する。</p> <p>(2)学習のまとめを話し合う。</p>	<p>振り返ったことについて3年生に伝え、学習交流を図る。</p> <p>・板書をもとに見比べさせ、両学年に共通する内容を見つけさせたい。</p>
---	-------------------------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------------------------	---

(5) 板書計画

第3学年	第4学年
<p>11/12 P18</p> <p>問題 1つのへんが16cmの正方形の、まわりの長さは何cmですか。</p> <p>式 $16 \times 4 = 64$ 答え 64cm</p> <p>16を10と6に分ける。 $10 \times 4 = 40$ $6 \times 4 = 24$ あわせて 64</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> $\begin{array}{r} 16 \\ \times 4 \\ \hline 24 \cdot \cdot 6 \times 4 \\ 40 \cdot \cdot 10 \times 4 \\ \hline 64 \end{array}$ </div> <p>課題 16×4の筆算のしかたを考えよう。</p> <p>まとめ 16 「四六二四」の4 $\times 4$ を一ののぐらゐに書 4 き、2を十ののぐらゐにくり上げる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> $\begin{array}{r} 16 \\ \times 4 \\ \hline 64 \end{array}$ <p>「四一が4」の4に、くり上げた2をたして6。6を十ののぐらゐに書く。</p> </div> <p>19 $\times 3$ $\hline 57$</p>	<p>11/12 P8</p> <p>問題 色紙が78まいあります。1人に19まいずつ分けると、何人に分けられて、何枚あまりますか。</p> <p>式 $78 \div 19 = 4$あまり2 答え 4人に分けられて2まいあまる</p> <p>課題 $78 \div 19$の筆算のしかたを考えよう。</p> <p>まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> $\begin{array}{r} 4 \\ (20) \underline{78} \\ 19) \underline{78} \\ \hline 76 \\ \hline 2 \end{array}$ </div> <p>小さすぎた $(20) \underline{3} \rightarrow 4$</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> $\begin{array}{r} 19) \underline{78} \\ \underline{57} \times 3 \\ \hline 21 \quad 57 \end{array}$ </div> <p>商を1大きくする。 $19) \underline{78} \quad 19) \underline{78} \quad 19) \underline{78} \quad 19) \underline{78}$ $\underline{76} \quad \times 4 \quad \underline{76} \quad \times 4$ $\hline 2 \quad 76 \quad \hline 2 \quad 76$</p> <p>まだひける \rightarrow もうひけない</p>

9 座席表

第3学年

①				
②				③
④				
⑤	関	考	表	知
1		■		
2		■		
3	■			
4				■
5			■	
6			■	
7			■	
⋮				
12			■	
13				■

第4学年

①				
②				③
④				
⑤	関	考	表	知
1		■		■
2	■			
3			■	
4			■	
5			■	
6	■	■		
7			■	
⋮				
14	■			
15				■

①				
②				③
④				

①				
②				③
④				

(表の内容については省略)

①氏名 ※指導案では、アルファベットで表示する。

②既習内容の定着～◎全問正解

○一部正解 (不正解 2 割未満)

△未定着 (不正解 2 割以上)

③未習内容の状況～◎全問正解

○一部正解 (正解 2 割以上)

△未定着 (正解 2 割未満)

④実態についての特記事項と個別の指導観

⑤授業記録

※本指導案では、小単元の記録として活用

※網掛けは評価を行う観点

⑤	関	考	表	知
1		■		■
2	■			
3			■	
4			■	
5			■	
6	■	■		
7			■	
⋮				
14	■			
15				■